

# 職員オススメ本 1月



「祖母姫、ロンドンへ行く！」 榎野 道流／著 小学館

「一生に一度でいいからイギリスに行きたい。お姫様のような旅がしてみたいわ」そう話した八十を超えた祖母の願いをかなえるために、親戚がお金を出し合い決まった豪華旅行、そのアテンドを任された作者は、美術館に、オリエント急行でのディナー、本格アフタヌーンティなどあれがしたい、これがしたいという祖母の願いをかなえるために振り回されることに。

よき旅を支える五つ星ホテルのバトラーやドアマンの仕事ぶりに感動すると共に、どんなときにも自信と誇りを失わない「祖母姫様」の言葉にはっとさせられる旅行エッセイです。



「幸せ招く縁起物」 本間 美加子／著 翔泳社

2024年、新たな一年が始まりました。今年も！今年こそ！良い年でありますようにと願う方が大半ではないかと思えます。

本書は、狛犬とシーサーのルーツは同じ古代オリエント地方の獅子（ライオン）で魔除けであることなど縁起物背景にある信仰や伝承、歴史と福を呼び、運を開くモノを紹介しています。

新年の運気を上げ、そっと寄り添い、暮らしに彩りを与えてくれる縁起物を見つけ、今年も！今年こそ！良い一年を過ごせますように。



「獣の夜」 森 絵都／著 朝日新聞出版

入社二十五年目の十日間のリフレッシュ休暇。永井は、二年前から憧れのイタリア旅行を計画し心待ちにしていた。しかし、パンデミックが起こり中止を余儀なくされる。失意の中、休暇最終日に向かった海で「生きるカリスマ・トシヤ」に出会い心の奥にしまい込んでいた迷いと向き合うことに…。

数多くの児童文学賞、そして直木賞を受賞した作家が描く、どこか不思議で温もりを感じる七つの短編集です。